

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

2012年もイースターを迎えます。4月に入って年度も替わり、様々なことが新しく動き始めました。釜石もだんだん暖かくなり、そろそろ春の装いです。今回は支援室ニュースと合わせて支援品リストも更新しました。まだまだ様々なもの・ことが不足している釜石です。これからもみなさんの変わりのない支援をよろしく願い申し上げます。

【社会福祉法人・釜石神愛幼児学園誕生】

2012年4月1日をもって、釜石神愛幼児学園は宗教法人から社会福祉法人に移行しました。合わせて第1回の理事会、引き続いて釜石神愛教会の信徒総会が、加藤主教を迎えて行われました。これから釜石神愛幼児学園は、老朽化した建物の建替えの準備を進めます。今後園舎の引越し等のお手伝いも募集します。6月くらいの予定になりそうです。支援室ニュース号外にて募集しますので、どうぞよろしく願いいたします。

【第三次青年ボランティア】

三回目となる青年ボランティアが、3月28日から4月2日の予定で、吉野執事の引率により実施されました。春休み中という事もあり、齋藤晃さん(旭川)・高橋愛さん(小樽)・大町包さん(マーガレット)・小貫隆さん(マーガレット)・小貫創さん(マーガレット)・鳴海理絵さん(釧路)・宮崎光太郎さん(市川聖マリヤ)の8名が参加しました。また、旭川聖マルコ教会の久末隼一さんに引率・運転のお手伝いをいただきました。感謝いたします。

青年たちは、仮設住宅での戸別訪問を中心に、神愛幼児学園にも関わっていただきました。初めて釜石を訪れる青年も多く、まったく初めての経験で、戸惑うことも多かったようですが、若さで乗り切り、交流を深めてきたようです。今後の予定は未定ですが、これからも釜石との関わりを深めていくことができるよう、願っています。また、今回の感想を聖マーガレット教会の小貫創さんと、市川聖マリヤ教会の宮崎光太郎さん(小貫ツマ司祭のお孫さん)からいただいていますので掲載いたします。

釜石支援ボランティアをして

聖マーガレット教会 小貫創

ぼくは、この活動に初めて参加しました。行く前まで、瓦礫の撤去などの力仕事をやると思っていて毎日筋トレをやり鍛えていましたが、詳しく仕事の内容を聞いて鍛えなくても別によかったと思いました。実際にやったことは、仮設住宅に住んでいる人たちにくつ下カバーやざぶとんを届けたり、仮設訪問をしたり、保育園の子ども達と遊んだりしました。まず、くつ下カバーやざぶとんをみなさんに届けに行くと、みなさんは笑顔で受け取ってくれて、やっぱり相手が笑顔になってくれると、こっちまで笑顔になって良いものですよ。やっぱり、互いに笑顔になるのは良いもので、くせになりますね。

次に、仮設住宅に訪問させていただいて、ゆっくり楽しくお話をしました。地震や津波の話はほとんどしないで、お菓子を食べて楽しく話ができ本当によかったです。その時に食べた、アイスやカステラは最高かったです。他の班から津波の話聞いて、やっぱりこういう話を聞くと、被災された方々が、どのようなお思いで過ごしてきたかが深く伝わってきました。でも、みなさん元気で本当によかったです。やっぱり笑顔。元気が一番ですね。ご老人とお話をすると、心が穏やかになって安らぎました。改めて自分はおばあちゃんっ子だと思いました。

保育園の子どもたちは、本当最高に可愛くて楽しみました。子ども最高です。今回の活動で印象に残ったことは、一緒に行っていたメンバーも言っていたかもしれませんが、「相手が笑顔になると、自分も笑顔になる。自分が笑顔になると相手も笑顔になる」「こういう大変な時だからこそ、元気や笑顔が大切だと思った」「あと車に乗るとなぜか眠くなるのがわかった」「人と人とのコミュニケーションが本当に大切だと思った」

この震災を忘れる事なく、またこの活動をしたいです。今回は本当によい体験ができてよかったです。

釜石での支援活動に参加して

市川聖マリヤ教会 宮崎光太郎

ぼくは千葉県在住の宮崎光太郎です。先日、ボランティアに行く機会が与えられたので参加しました。震災があつてからもう1年もたっているのどういった状況になっているのかなと思っていききましたが、まだまだ復興するのに時間がかかりそうだなと思いました。ぼくは4日間釜石市でボランティア活動をしました。内容は、支援物資を仮設住宅に住んでいる方々に届けるのですが、「上がって」と家の人に言われたら、家の中に入り話を聞くこともありました。最初の頃は、ノックした方がいいものの、家の方が出てきたらテンパってしまい何も言えず、結局一緒に来ていた人が物資を配ってくれていました。でもだんだん慣れてきて、普通の振る舞い出来るようになりました。また、家の中に入った時には、津波の生々しい話をしてくれる方や日常的な話をしてくれる方もいて、すごく貴重な時間を過ごすことができました。

今回の活動を通じて、見知らぬ人が家に来たのに笑顔で接してくれたり家に上げてくれる皆さんの暖かさを感

じましたし、同じ時間を過ごして一緒に悲しんだり笑ったりすることで、人と人とのつながりが一番大切なんだな、と感じました。また、異性にモテる方法や、食わず嫌いだった栗をいただいて意外とうまかった事など、意外な収穫も得ることのできた釜石でした。

【李香男司祭・釜石滞在】

4月の滞在教役者が決まっていませんでしたが、今回はミカエル教会の李香男司祭が4月27日から5月1日の予定で釜石に滞在されます。少し短い期間ですが、主日をはさんでのご奉仕となります。旅路の上に、また現地での働きの上に主の導きが豊かにありますよう、お祈りください。

【釜石での働き】

※ 震災支援室ブログ(海老原さん・向井さん発信)より抜粋

3月22日

まず午前ですが、センターが一花さん・沢田さんのコンビ、戸別訪問が林先生・石田さん・私のメンバー。今日はまだ私も行ったことのない松倉A仮設を訪問してきました。JR釜石線松倉駅の裏の高台にある仮設で、周りが里山のようなところでした。日当たりもよく、住民は「住みやすい」と言っています。一軒ずつ訪問しましたが、すでに我々のことを知っている方も数名おられました。今日も多くの方に喜んでいただけたと感じています。つながりの最初の一步です。

午後は社協イベントのゲスト参加でした。今日は震災前に室浜地区でお暮しの方々の集まりでした。元にした地区の関係性を大切に保ちましようという趣旨の集まりです。我々は仮設で新しいコミュニティーを作る働きをしていますが、以前のコミュニティーを大切に維持していく働きも同じくらい重要なのです。誰もがなんらかのコミュニティーとつながっていることが大切なのです。それが孤立化の防止になります。つまり自殺や孤独死の抑制になるのです。

3月30日

本日は北海道青年キャンプワーク初日。初日のミッションは靴下カバーの配布でした。今日も丁寧に一軒ずつ戸別訪問です。午前は松倉サッカー場仮設、午後は昭和園仮設を訪問しました。松倉サッカー場はセンター常連も多く、座布団プロジェクトも行っている仮設です。暖かく迎えていただきました。3チームに分かれての配布でしたが、みなさんお呼ばれしてよい交流が行われました。

午後は昭和園仮設です。我々があまり関わっていない仮設です。上中島や天神と同じように初期にできた仮設で、高齢者と子供を持つ家庭が多いところです。春休み中とあって子供たちが元気に遊んでいました。ベンチに座ってそれを見守る高齢者の方も。春の陽射しの中でそんなおばあ様とベンチでおしゃべりしました。靴下カバーを差し上げるとお喜びくださいました。お話しが進むとちょっと深刻な話も。でもお会いできたことを喜び合えたと思います。細やかなりレーションが行われたのなら幸いです。

戸別訪問を定期的に行うことによって気になる世帯の見守りができます。サッカー場仮設ではそんな世帯の様子をチェックすることができました。一安心。いただき物でポケットをいっぱいにして戻ってきた青年たち、ご苦労様でした。

【こいのぼり提供のお願い】

震災より1年が経ち、仮設住宅での生活もようやく落ち着いてきました。釜石支援センターがメインで関わっている上中島仮設の自治会よりの依頼で“こいのぼり”を集めています。上中島仮設は高齢者と共に、小さい子どものいる世帯の多い仮設住宅です。その前にある広場スペースに植えてある木を利用して、こいのぼりをたくさん、広場を横切るような形で飾ろう！ という計画が持ち上がっています。できればたくさんのこいのぼりを仮設住宅の前になびかせたい、と願っております。今月末には飾る予定です。期間は短いですが、物置等にしまいこんだこいのぼりがありましたら、ぜひご協力くださると幸いです。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ<http://nssk.org/walk>で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】

電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp

【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」

☎0193-55-4524、090-6999-7840

Eメールアドレス：nssk311@yahoo.co.jp